

令和 4 年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立豊新小学校

令和 5 年 3 月

## 1 学校教育目標

- ◇豊かな心で、語り合うことのできる子どもを育てる
- ◇新たな知を拓き、真実を学び続ける子どもを育てる
  - ・たくましい身体になる子ども
  - ・ゆたかな心をもつ子ども
  - ・よく考える子ども

## 2 学校運営の中期目標

### 現状と課題

#### 【生活について】

本校は素直で明るく、元気よくあいさつのできる児童が多い。また、ここ数年、重大な問題行動もなく、安定した学校生活を送ることができている。コロナ禍においても、マスクの着用・無言給食・無言清掃等の生活規律も児童会を中心に啓発活動を行い、多くの児童が学校の決まりを守りながら、主体的に取り組むことができている。また、体験的な学習を好む児童が多い中、コロナ禍のために、校外での体験的な学習活動が限定されており、実物に触れる機会が少なくなっている。学校行事、委員会活動やクラブ活動に関して、感染予防を講じた上で、積極的に取り組んでいる。高学年児童は低学年児童に優しい心を持って接し、低学年児童は高学年児童に対して尊敬の念を持って親しんでいる。地域や保護者も学校の教育活動に好意的で、多大なる支援・協力を得ることができている。

#### 【学習について】

日々の学習活動では、「言語活動の充実」を目指した研究をベースとし、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指し、反復学習や視写に取り組んでいる。令和3年度における全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査の結果、国語科においては学力の向上が見られ、全学年大阪市平均を上回った。しかしながら、算数科では、大阪市平均をわずかに下回っている。そこで、ICTを効果的に活用した学習を取り入れながら、課題に対し自立的、協働的解決できる授業を実践していく。さらに教科横断型となる教育課程の工夫を重ね、「主体的・対話的で深い学び」の実践を深めながら、学力向上を目指す。また、外国語活動については、学習内容の深化充実ならびにモジュール学習の確実な定着を図りながら、意欲を高めていく。

体力向上に関しては、各学年とも跳躍力や持久力、俊敏性の向上を目指し指導している。しかしながら、コロナ禍で体育活動に制限がかり、運動量の減少から児童の体力低下が懸念されている。豊富な運動量を確保した体育科授業の推進、運動を楽しく取り組むきっかけ作りを行い、進んで運動をする意欲の向上を図っていく。

日々の教育活動や行事等を通して、自己肯定感や自尊感情を高めることで、他者を思いやる豊かな心を育み、真実を学び続けられるようにする。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

**中期①** 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を90%以上にする。(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

**中期②** 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

**中期③** 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。  
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

**中期①** 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合45%以上にする。  
(施策4 誰一人取り残さない学の力向上)

**中期②** 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

**中期③** 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

(施策4 誰一人取り残さない学力の向上)

**中期④** 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。(施策5 健やかな体の育成)

### 【学びを支える教育環境の充実】

**中期①** 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を85%以上にする。  
(基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進)

**中期②** 令和7年度末にゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。  
(基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

**中期③** 令和7年度末の校内調査の「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和3年度より3ポイント増加させる。  
(基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進)

### 3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### 全市共通目標（小・中学校）

○令和4年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 R3 78.1%

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 R3 0.018

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 R3 —

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

##### 学校の年度目標

○令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上を維持する。 R3 94.4%

（基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現）

○令和4年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度（R3 39%）より3%増加させる。 R3 39%

（基本的な方向2 豊かな心の育成）

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### 全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。 R3 38.3%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上） R3 国語：3年101.4 4年100.6 5年101.0 6年101.7

算数：3年98.2 4年98.9 5年96.8 6年97.7

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 R3 87.7%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

（施策5 健やかな体の育成） R3 60.5%

##### 学校の年度目標

○令和4年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上を維持する。 R3 71.1%

（施策4 誰一人取り残さない学力の向上）

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標（小・中学校）

- 令和4年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を85%以上にする。 R3 -

（基本的な方向5 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進）

- 令和4年度末にゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

R3 夏季3日 冬季3日

（基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）

- 令和4年度末の「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和3年度より1ポイント増加させる。 R3 86%

（基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進）

### 学校の年度目標

- 令和4年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 R3 86% （基本的な方向8 生涯学習の支援）

- 心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。 R3 芸術鑑賞(1回) 郊外活動全学年1回以上実施

## 3 本年度の自己評価結果の総括

コロナ禍でも今年度は感染対策講じたうえで、教育活動を進めようと取り組んだ1年間だった。令和4年度学力経年調査結果は、全国比との比率で各学年とも若干1ポイントを下回り、不登校児童の在籍比率も前年より0.26ポイント上昇した。学ぶ愉しさを感じれる学校、興味溢れる学校を目指し、児童が意欲的に学びを行えるよう主体的な活動、体験的な活動を重視し、数値としても前年度以上の伸びを期待したが、十分な成果が上がらなかった。しかし、すべてが目標値に届かなかったというわけではなく、児童の意識調査並びに学力・体力等は、高い値で推移しているため、今年度の取り組みを今後も継続していくつもりである。

(様式2)

## 大阪市立豊新小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> <b>全市共通目標(小・学校)</b> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 <b>R3 78.1% R4 82.0%</b> ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <b>R3 0.018 R4 0.02</b> ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <b>R416.7%</b>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> いじめアンケートを定期的に(学期に1度)実施し、当該児童から聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していくとともに、日常的にいじめはどんな理由があってもいけないことだと指導を継続していく。	B
<b>指標</b> 学期に1度、いじめアンケートを実施。いじめ対策委員会で認知したいじめについて全教職員で共通理解を図り対応する。	
<b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> 区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有しながら支援を継続していく。	B
<b>指標</b> 月に1回、生活指導部会及び児童理解研修を実施する。	
<b>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> ICTの活用による、本人、保護者と学校がつながる回数を増やす。	B
<b>指標</b> 学校に来ることが難しい児童にクロームブックを貸し出し、週に1回以上オンライン学習を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① いじめアンケートを学期に一度、計画的に実施した。実態の把握と課題がある場合、丁寧な聞き取りと関係児童への指導を行った。また、速やかにいじめ対策委員会を開き、解消に向け共通理解を図り、継続的に指導を行うことができた。 ② 外部機関との情報共有を行い、専門的な視点からの支援を行うことができた。生活指導部会での情報共有により、保護者にも様々な角度から支援を行うことができた。 ③ オンラインや放課後登校等、児童・保護者とつながる支援の手だてを児童の気持ちや家庭の状況に応じて行った。	
次年度への改善点	
① 引き続き、学期に一度のいじめアンケートを実施する。いじめ事案への指導や解決後の取り組み等を丁寧に行う。事案が発覚した場合は、速やかに関係保護者への報告・共有を確実に行う。教職員全体で、児童への声掛けや様子を観察し、心身の変化がないか、学校全体で見守ってい	

く。教員間での「報・連・相」を徹底するため、月一回の生活指導部会で児童の状況把握や校内の安全整備等、共通理解を図る。

- ② 外部機関との、ケース会議の回数を見直したり、具体的な取り組みの課題設定をしたりして、児童や保護者との持続的な社会へのつながりを作っていく。
- ③ 生活リズムや家庭での考えが多様になる中、数値化だけでは見えない児童の心身状態も十分に配慮する必要がある。オンライン学習の実施や出欠席アプリ「ミマモルメ」の積極的に活用する。学校とのつながりが難しい児童には、フリースクールや地域活動など、学校以外での社会とのつながりをもつことができるように支援していく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b> <b>学校の年度目標</b> ・令和 4 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上を維持する。 <u>R3 94.4% R4 93.5%</u> ・令和 4 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 3 年度より 3 %増加させる。 <u>R3 39% R4 39.3%</u>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールについて全教職員で日常的に指導する。 指標 「豊新学びのきまり」に基づき指導に当たる。毎週児童朝会を実施し、月目標や週目標を指導支援する。	B
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 キャリアパスポートに基づき、体験活動等で得た達成感や充実感を振り返り、自尊感情の育成を図る。 指標 学期に 2 回、キャリアパスポートで目標の設定と振り返りを実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 校内調査の「学校のきまりを守り、学校生活を送っていますか」の項目においては、94%の児童が肯定的に答えており、安全安心な教育環境に向けた指導取り組みが継続して実施できた。 ② 校内調査の「自分にはよいところがあるとおもいますか」の項目においては 47%の児童が最も肯定的に答えており昨年度よりも大きく上回っている。友達の良いところを肯定的にとらえる児童が 98%であり、集団での学びの育成につながっている。	
次年度への改善点	
① 教員と児童との目標に対する意識のずれがある。実際、どのような場面で安全につながるのか、目標と行動を明確にしていけることが必要である。児童がより安心・安全を意識した行動ができる指導を徹底するために、「月目標」や「週目標」を明確に提示する。そのための掲示や活用の仕方等を生活指導部中心に工夫して、実施していく。 ② 自尊感情の育成には、キャリアパスポート活用との相対性を検討していく。また、キャリアパスポートだけでなく様々な観点から児童の自尊感情を高める指導支援をする。キャリアパスポートが児童にとって身近なものになるよう取り組み方や保管のあり方等を検討する必要がある。	



大阪市立豊新小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。 <b>R3 38.3% R4 36.2%</b> ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 <b>R3 国語 0.98 算数 0.92 R4 国語 0.98 算数 0.93</b> ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 <b>R3 87.7% R4 84.7%</b>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れ、多くの場面で考えを深め合ったり、伝え合ったりできるように工夫し、学習したことを振り返る活動を取り入れる。 <hr/> <b>指標</b> 1日1回、学習の中で話し合う活動を実施する。また、学習の中で振り返る活動を取り入れる。	C
<b>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、家庭学習支援などを行う。 <hr/> <b>指標</b> 単元ごとに習熟を図るため調査を実施し、個々の進捗状況を把握する。学習ドリルなどを、やり直しを含め丁寧に実施し、学期に1回点検する。	C
<b>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。 <hr/> <b>指標</b> 外国語活動・英語教育の教員研修会を年3回実施する。	A
<b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b>	
① 学力向上部が提示した話型をもとにしながら、学習の中で話し合う活動を1日1回実施した。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の項目において、もっとも肯定的に答える児童の割合は、36%であり目標値を9ポイント下回っている。児童一人一人が自分の意見を表現できる場の設定をし、対話的な活動に取り組む授業法の研究・研修を実施する必要がある。 ② 単元ごとに学習の習熟度を図るための学習ドリルや定期試験を適宜行い、個々の学力状況や進捗状況を把握してきた。理解が十分ではない児童には、個別指導や反復学習を行い、学習内容の理解が深められるようにしてきた。小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると算数、国語ともに目標値を下回った。高学年になるにしたがい、学習内容が増えることで、個人の習熟度の差が開いているように思	

われる。今後も基礎的・基本的な学習内容や学習習慣の確実な定着を図れるようにしていく。

- ③ 外国語活動や英語教育の研修は、計画通り実施した。【イングリッシュデイ（8月）、英語教育研修会（9月）、英語研修授業（10月）】モジュール学習を中心に、外国語に触れる活動を積極的に行っている。昨年度に引き続き、オンラインを活用し海外との交流を図り、興味・関心をもつことができた児童が多くいた。校内調査の「外国語の活動は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合が94%と上回り、結果につながった。

次年度への改善点

- ① 単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で対話的な活動ができるように引き続き工夫する。
- ② 児童一人一人の状況に応じた学力向上への取り組みとして、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ学習、反復学習、習熟度別学習、家庭学習支援等を引き続き行う。
- ③ 引き続き、C－N E Tの授業を参考にしたり研修会を実施したりする等、外国語活動・英語教育の指導法の工夫を共有し、児童の興味・関心を高めていく。

(様式 2)

## 大阪市立豊新小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70% 以上にする。 <b>R3 60.5% R4 73.3%</b>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 運動の日常化のために、児童が意欲的に体を動かそうとする活動や運動強調週間を実施する。	A
指標 運動委員会を中心に 4 回以上（1 学期 1 回 2 学期 2 回 3 学期 1 回）体を動かす活動を計画し実施する。 11 月（なわとび）と 2 月（かけあし）に「運動強調週間」を実施する。	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 保健学習や保健週間の設定において、健康で安全な生活態度や習慣を向上させる取り組みを行う。	B
指標 年 1 回以上の性教育を実施する。9 月と 2 月に「手洗い強調週間」を行う。	
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 栄養指導や給食指導において、食べることの楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養う取り組みを行う。	B
指標 食に関する指導を学期に 1 回以上取り組む。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 運動委員会を中心に計画通り活動を実施することができた。「なわとび週間」では、学級ごとに大縄八の字記録会を行ったり、「かけあし週間」では、児童が作成したかけ足カードに取り組んだり、全校での取り組み以外に、児童が意欲をもって自主的に参加できる活動を取り入れた。その結果、児童は楽しみながら、進んで体を動かすことができた。	
② 全学年、性に関する指導を計画通り年 1 回以上実施した。1 月には教職員間で各学年の取り組みを報告し、学習内容を共有した。また、保健委員会を中心に、年に 2 回「手洗い強調週間」に取り組んだ。「手洗いカード」【洗いの仕方を確認】や「生活点検表」【ティッシュやはんかちの持ち物点検】を用いて健康を保持し、習慣化できるように意識づけを行った。	
③ 2 学期に、栄養教諭による栄養指導が全学年で実施された。それぞれの栄養素の働きや栄養バランスの取れた朝食を摂る大切さ等、食生活が健康につながるということを学習した。また、各学級で献立表や食育だよりを活用し、行事食や旬の食べ物を紹介することで、「食」に興味や関心がもつことができるような取り組みを行った。	

次年度への改善点
① 児童が体を動かす場を増やす取り組みだけではなく、運動委員会が中心となり、児童の主体性を引き出す活動内容になるように工夫していく。また、異学年交流も取り入れ、教え合い、互いに高め合いながら運動できる機会をもつことができるようにする。
② 性に関する指導について、各学年の取り組み内容を報告するだけでなく、次年度への引継ぎを行い、系統立てて学習を行うことができるようする。また、健康を保持するための習慣を身につけられるよう、手洗い強調週間に限らず、日常から継続して声掛けを行っていく。
③ 栄養教諭による栄養指導や献立表や食育だより、食育ポスターなどを用いた食に関する指導を継続し、家庭への啓発も行い、食べることの楽しさやバランスのよい食生活を大切にする気持ちを養う取り組みを行っていく。

(様式 2)

## 大阪市立豊新小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>学校の年度目標</b> ・令和 4 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合を 73% 以上にする。 <b>R3 71.1% R4 61%</b>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。 <hr/> <b>指標</b> 教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修を 8 回以上行う。	B
<b>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 主体的、対話的な活動を取り入れ、児童が自分の考えを持ち、交流を通じて考えを広げる場を設定する。 <hr/> <b>指標</b> 言語活動の充実を図り、1 日 1 回以上、話し合う活動を取り入れる。	B
<b>取組内容③【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</b> 年 3 回学力向上 week を実施し、児童の国語力を伸ばす。 <hr/> <b>指標</b> 学期に 1 回の学力向上 week (1 学期に「音読・群読」、2 学期に「漢字」、3 学期に「作文」) を実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 実施計画に基づいて、実施することができた。令和 4 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 95% であったが、目標値である最も肯定的に答える児童の割合は 61% で下回った。多くは、理解できていると感じてはいるが、確実に習熟できたという自信をもつことができないということがわかった。今後、児童が主体的に取り組み、できた喜びを感じられる指導法の研究を進めていく。 ② 学級活動の中で『1 日の目標』や『生活の振り返り』を行う等、年間を通し多くの場面で、1 日 1 回以上伝え合う活動を積極的に取り入れてきた。しかし、自分の考えに自信がもてず、発表に対して苦手意識を持つ児童も少なからずいる。 ③ 計画に沿って学力向上 Week を実施した。全体での発表 (音読・群読) や検定試験 (漢字)、コンクール (作文) を実施し、目標を明確にすることで、意欲的に取り組んだ。
次年度への改善点
① 引き続き研究授業および研修会を実施する。次年度の年間計画・方針・研究の柱を明確にして共通理解をもって研究を深める。 ② 今後も主体的、対話的な活動を多く取り入れ、交流を通じて自らの考えをきちんともつことができる指導をしていく。 ③ 校内の研究教科に関連付けた学力向上 Week の実施内容を学力向上部中心に検討し、実践していく。

(様式2)

## 大阪市立豊新小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した  
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> <b>【ICTの活用に関する目標を設定する】</b> ・令和4年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を85%以上にする。 <u>R3 - R4 93%</u> <b>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</b> ・令和4年度末にゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。 <u>R3 夏季3日 冬季3日 R4 夏季3日 冬季4日</u>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向番号5 DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】</b> ICT(心の天気、デジタルドリルなど)を活用した教育を推進する。 <hr/> <b>指標</b> 日々の授業の中で学習者用端末をほぼ毎日使用する。	B
<b>取組内容②【基本的な方向番号6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 <hr/> <b>指標</b> ゆとりの日について、週1回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外においては1日以上設定する。	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 単元によって、使用頻度の差はあるが、学習者用端末を適宜使用することができた。校内調査の結果「学習者用端末を利用して学習をしている」の項目では、肯定的に答えている児童の割合が93%で、目標を達成することができた。各学年の実態に合わせて、心の天気や調べ学習、自主活動等でICTを活用することができている。 ② ゆとりの日や学校閉庁日の設定については、年中行事や月中行事の中に設定されている。しかし、実際の勤務状況と対応ができていない。会議や研修、懇談、保護者対応等、業務内容が多岐にわたる。結果、ゆとりの日は、日々積もった業務や採点、授業準備等に追われるために残業、もしくは持ち帰り業務になっている。行事や業務内容の見直しが必要である。	
次年度への改善点	
① 心の天気や調べ学習、自主活動等の活用を引き続き継続するとともに、ICTを活用した授業展開の研修を校内で定期的に取り入れていく。今後、ICT教育が進んでいくための人材育成や確保が必要である。 ② ゆとりの日をホワイトボードに書く等、注意喚起を徹底する。また、ゆとりの日に行事や会議等を入れない。来年度から制限解除に伴い、これまで控えていた行事を実施することもあり得るが、業務時間内対応できる行事や業務内容の見直しをしていく。	



評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b> <b>学校の目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の校内調査における「読書は好きですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上を維持する。 <b>R3 86% R4 85%</b></li> <li>心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（演劇・音楽鑑賞・古典伝統芸能）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。  <b>R3 芸術鑑賞(1回) 郊外活動全学年1回以上実施</b></li> <li>令和4年度末の「学校は保護者や地域と連携し、協力し合っている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を令和3年度より1ポイント増加させる。  <b>R3 86% R4 88%</b></li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向番号8 生涯学習の支援】</b> 学級文庫の充実ならびに地域の方の読み聞かせ活動の活性化を図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。 ----- <b>指標</b> 週に1回、図書館を利用する。10月に読書月間を実施する。	B
<b>取組内容②【基本的な方向番号8 生涯学習の支援】</b> 芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。 ----- <b>指標</b> 芸術鑑賞行事、3～6年生で社会見学を確実に1回実施する。	A
<b>取組内容③【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b> 教育方針や教育活動の様子を、「学年だより」等を通してわかりやすく伝える。 ----- <b>指標</b> 月に1回、学年だより等を地域・保護者に配付する。週1回、学年の活動をホームページに掲載する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 年間を通して、図書館ボランティア（がらがらどん）による読み聞かせ活動や図書館開放を実施している。また、各学年の実態に合わせた購入図書の選定や学級文庫の充実に努めるために学級での年間貸し出し冊数(200冊)の目標を設定し、3月末までに達成予定である。さらに図書委員会を中心に読書週間を行い、読書に親しむ児童が増えてきている。結果として校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は、85%で目標に達した。引き続き、児童が興味を持てる本や資料、言葉等を紹介しながら、読むことに対して親しみをもつことができるように指導・支援していく。 ② 年間行事計画に基づき、3～6年生で社会見学をそれぞれ2回以上実施することができた。児童が主体的に取り組める体験活動を選定し、心豊かな児童の育成を図ることができた。 ③ 月に一度「学校だより」や「学年だより」を配付し、教育方針や行事予定を伝えてきた。また、緊急時や行事前には「はなまるメール」を活用し、保護者・地域へ速やかに伝達した。ホームページは、適宜、各学年によって学習活動の様子等を伝えているが、更新頻度に差がある。

#### 次年度への改善点

- ① 引き続き、図書館ボランティアによる読み聞かせ活動（がらがらどん）や図書館開放を継続して取り組めるよう依頼していく。また、学級文庫の充実を図るために、新刊図書の購入や東淀川図書館の貸し出しを計画的に行っていく。
- ② 学年の実態に合わせて、児童が主体的に取り組める体験活動を計画的に実施していく。また、低学年にも体験活動を増やす機会を積極的に設ける。（出前授業や図書館見学など）
- ③ 引き続き「学校だより」と「学年だより」は、月に一度配付する。来年度より、大阪市全体で出席確認アプリ「ミマモルメ」を導入する。これまでの「はなまるメール」に変わり緊急時や連絡事項も掲載することが可能であることから、地域・保護者に操作方法の丁寧な説明をしていく必要がある。また、学校・学年の行事や学習の様子は、適宜ホームページに掲載するよう共通理解を図り、地域とともにある学校を目指す。